

水の輸入

山添村立山添中学校二年

岡田 明日成

現代の日本は、美味しい食べ物に恵まれている。しかし、その反面、アメリカ合衆国や中華人民共和国をはじめとする諸外国からの輸入に頼り、食料自給率の不足している部分を補っているというのが事実だ。

ある日、私は日本の貿易に関する記事を見た。その記事の追記に、「バーチャルウォーター」という言葉があった。それは、「食料を輸入している国（消費国）において、もしその輸入食料を生産するとしたら、どの程度の水が必要かを推定したもの」を意味する言葉である。そして、「日本の食料の輸入は、形を変えて水を輸入していることと考えることができる」ともあった。私は、「それでは、日本が諸外国の水を勝手に使っているのと変わらないのではないか……」と疑問を持った。

これは、私が、

「水に関して詳しく知りたい」

と思ったきっかけであつた。

そこで、さつそく、水についてインターネット検索をした。バーチャルウォーターと深い関係にある食料の輸入だ。

調べてわかつたことだが、日本の食料自給率は、カロリーベースで三十七パーセントと、先進国では極めて低い水準だそうだ。そのため、日本は、食料や家畜の餌を輸入に頼っていることになる。それに比例してバーチャルウォーターの量も多くなっている。現在の日本では年間でバーチャルウォーターをなんと六百四十億トン毎立方メートルも輸入しているのだ。それにも関わらず、日本国内で食べずに捨てられている食品は、年間で五百二十トンにもものぼる。バーチャルウォーターにしてみると、二十億トン毎立方メートルにも及ぶという。

食品ロスの言葉にどきつとした私は自分自

身の生活を振り返ってみることにした。私はこれまで、苦手な食べ物を無意識に避け、食べずに捨てていたことがほとんどだった。

そこで思い出したのが一枚の写真のことだ。

SDGs（二〇三〇年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標）の目標六「安全な水とトイレを世界中に」の写真だ。それを見て、私は驚愕した。私よりも幼い子供が糞便に汚染されている水を飲料水として口にしているのだ。

私は、この汚水を飲むしかないという現実に関心を痛めた。そして、この状況に苦しんでいる人々が世界には約十八億人もいるということも記されていた。

「貧しい子供たちは、食べ物どころか、水すらも思うように口にすることができないというのに……」
と、私は自分自身の行動を悔やんだ。

蛇口を捻れば飲める水、川を流れる水など、私たちの身近に存在し、私たちの生活を支え

てくれている水、これらが、当たり前前ではないことを、私は、バーチャルウォーター、自分自身の食生活を通じて深く学んだ。世の中には、日本のように安心して、水を飲めない人々が沢山いる。私たちが水を大切に使用しているのは確かだ。しかし、輸入した食料を使用した食品を食べずに捨ててしまうことによつて失われてしまうバーチャルウォーターを気に留めている人は少ない。それでは、知らずしらずのうちに水を捨てていることに等しいのではないか。私は食品にも、水を使っている事を知ってもらいたいと思う。